

台風が来た！！



9月20日大型

台風が九州

を襲い、関東

地方に接近

正に登山当日

のことであった。3か月かけて
万全の準備をしてきたことを、全て
台風を持っていかれた！

登山中止を伝えた時のどよめき。
2年連続の登山中止に、ショック
状態。何とも胸が痛くなる瞬間で
した。今回はそれぞれの複雑な思
いと、皆さんの課題を残していま
すので、これから総括をし、次回へ
引き継ぐための作業を行います。

改めて自然の驚異を感じます。
震災の上に台風の被害にあわれた
九州地方の皆様には、心よりお見舞
い申し上げます。

はぐるまの会

本来であればここで利用者さんのたくま
しい登山の写真とともに合宿の報告をする
はずでした。しかし、出発当日まさかの台風
直撃。合宿の計画を中止せざるを得ませんで
した。昨年の悔しい気持ちもあり、今年こそ
は！と臨んだ合宿だったので、中止の決定ま
では職員会でも白熱した話し合いがあり
ました。行くのか、行かないのか。一泊では
どうか？日帰りか？など様々な意見が出さ
れましたが最終的には仲間の安全を最優先
した苦渋の決断となりました。今年の合宿に
かける熱い気持ち、当日の朝の中止の決定
という遅い決断を招く一因となったことは
大きな反省点です。

結局利用者さんには当日の朝に中止の決
定を伝えましたが、残念そうな顔、不満の声
に胸が詰まる思いでした。パニックや大きな
混乱を見せる方がいなく、彼らの適応力に感
心しました。

中止と同時に三日間をどのように過ごす
かを仲間自治会と話し合いを持ちました。

一日目、二日目は用意していた雨の時の
レクリエーション（DVD、カラオケ、ボウ
リング大会）、三日目は「買い物が見たい」「運
動もしたい」という思いと、繰り返し移動の
練習をしてきたことを活かし、立川の昭和記
念公園ハイキングとしました。

レクリエーションのボウリングでは合宿
のレク係が大奮闘し皆を大いに盛り上げて
くれました。昭和記念公園では登山グルー
プごとに分かれ公園を散策し、昼食・おやつを
堪能しました。登山練習で培った連帯力や集
団で移動する力が発揮できたかな、と思いま
す。

その後のまとめ会では利用者さんから「日
帰りでも登山がしたい」という意見が出され
ましたが、日程・安全面を考慮すると今年度
の登山は難しいとの判断に至りました。

当日キャンセルという最悪の状態を想定
していなかったことへの反省や、二年続けて
登山ができなかったことの影響等をしっか
りまとめ、来年度の活動に生かしていきます。

（登山実行委員長 佐々木綾太）

No.95

2016年10月7日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会

川崎市多摩区
菅馬場1-18-17
Tel.044-946-1308

はぐるまの会では、JDF（日本障害フオーラム）熊本支援センターでの被災地支援活動を継続しています。

今回号では、平成28年8月7日～8月13日の支援内容を報告いたします。

支援活動を終えて

はぐるま共同作業所 成田健太

JDF熊本支援センターでは、市内の障害手帳をお持ちの全ての方(約42000人)へ、「SOSチラシ」を作成し郵送しています。

これをご覧になった方から、支援を求める電話がかかってくる予定です。

私が参加をした第14クールが担当した支援内容は、半壊した家の片づけ・引っ越しの手伝い・瓦の撤去作業などでした。作業を進めていく中で、最初は、表情が硬かった相談者の方も会話や昼食を共にすることで、表情が柔らかくなり、色々と身の上話などをお話してくれました。震災から時間だけが経過し、孤立していく状況の中で、話し相手の必要性を感じました。また、今回痛感したのは、手帳をお持ちではなく、障害・介護サービスの利用がなく、無年金の方など地域・行政に全く繋がりが無い方が多数いることが浮き彫りとなったことでした。

これは、自分たちが暮らしている川崎でも地域との繋がりがなく、困難を抱えている方がいるということだと思えます。災害時に浮き彫りにするのではなく、日々の生活の中でどのように備えてゆくのかを考えさせられる1週間となりました。

様々な支援のあり方

はぐるま管工舎 古田 詩子

私は、「にしはらたんぼハウス」の調理支援（調理補助担当）に参加をしました。

施設内はとても家庭的な雰囲気で、利用者さん、スタッフ共に、それぞれの役割をテキパキとこなしてゆきます。

この「たんぼハウス」では、一般の方に300円で昼食の提供とお弁当を販売しています。また毎週金曜日の「絆食堂」では、高校生以下の方を対象に無料で昼食を提供しています。

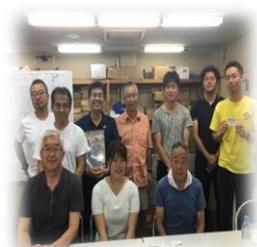
今回の活動では、「食」を通じて被災された方々の笑顔と元気の源に少しでも力になれるように日々心掛け、調理支援を行いました。

震災当時、施設へ避難していた方々への食事提供から始まって、今もな美味しいお食事を一般の方たちに安価で提供し続ける強い強い

想いに

感謝を

受けました。



支援チームの皆様と

【連載シリーズ】
2025年問題と新オレンジプラン ③

厚生労働省によると、2012年には高齢者7人に1人であった認知症の方の割合が、2025年には5人に1人へと増加すると予測されています。この急速な高齢化と認知症の増加を受けて、団塊世代の方々が75歳となる2025年までを対象期間とした、「認知症施策推進総合戦略」認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて「（新オレンジプラン）を2015年1月に策定しました。基本理念として「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す」ことを掲げています。

新オレンジプランは以下の7つの柱から構成されています。

- ① 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- ② 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- ③ 若年性認知症施策の強化
- ④ 認知症の人の介護者への支援

⑤ 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

⑥ 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進

⑦ 認知症の人やその家族の視点の重視

オレンジプランを踏襲したものとなって

いますが、新オレンジプラン策定にあたって

数値目標が明確となったのは①普及・啓蒙

(認知症サポーター養成の目標引き上げ)、

② 適時・適切な医療・介護等の提供(認知症

サポーター養成研修の目標引き上げ等)、③

介護者への支援(認知症カフェ等の設置推奨)

が挙げられます。そして、新たな項目として

④ やさしい地域づくりの推進が示され、生活

の支援、環境の整備、就労・社会参加支援、

安全確保、の向上を目指しています。

このように、地域をフィールドとして医

療・介護を主とした連携づくりを進めること

で、認知症を理由として住み慣れた町で生き

づらさを抱えないような取り組みが進めら

れています。しかし、国の制度である介護保

険だけでは支えきれず、市町村への移行がみ

られるようになってきました。高齢者介護の

分野では介護保険の対象であった要介護認

定で「要支援」向けのサービスが介護保険サ

ービスから外れることが決定し、その事業を市町村が担うこととなりました。さらに今年の9月、ホームヘルパーが調理や掃除などの支援をする、生活援助サービスを多く利用している(全体の7割に相当)要介護1、2について、介護保険サービスから外すよう財務省から提案があり、社会保障審議会で対応を協議しています。医療分野では、医療費抑制のために入院日数の抑制が促されていますが、その後の対応に不可欠な在宅医療の整備は市町村によって大きな格差があるのが現状です。

地域で暮らすとの理念を掲げたプランが、財源不足を理由の一つとして後退していくことがないよう、私たちは関心を深めていかなければならないでしょう。社会的なニーズを持つ人々が地域で暮らし、共に受け入れ合い、生きていくためには何が必要なのでしょう？常にこの問いを自らに投げかけ続けることは誰にでも可能なのではないかと思えます。制度によりかかりすぎず、互いに生きていく方策を考えていく力を地域が持つことで何かの変化が起ころのではないかと思います。(了)

(みどりホーム 新井多佳夫)

※前号で認知症ケアパスについての記述に間違いがありました。訂正してお詫びいたしま

す。正しくは、認知症ケアパスとは、認知症と診断されてから状態に応じて利用できるサービス等の流れを示すものです。病院から地域・自宅への一方向的なサービス提供の流れを示すものではありません。

季節の花苗を

お届け!!



はぐるま工房(はぐるま稗原農園)では、一昨年度より、川崎駅前を中心とした地域で公園のコミュニティ花壇づくりを行っている「川崎西部まちづくりクラブ」さんへ、春と秋に季節の花苗をお届けしています。

近年では、まちづくりクラブの皆様のご活躍により、ゴミの投棄も減り、危険な印象が強かった川崎中心部の公園の花壇を中心とした地域のコミュニティが生まれてきていますとお聞きしております。

この秋は、はぐるまの農園で育てた「キバナコスモス」をお届けしてきました。

この時期に花苗をお届けする為には、あの暑かった酷暑の時期に種まきをし、土日も含め毎日の水やりの管理が不可欠です！正直、野菜たちの栽培もまだまだ勉強不足で

すので、花苗の栽培に関しては課題だらけの状態なのですが、「かわさきを明るく元気にする！」一助として仲間の育てた季節の花たちが人口の増え続けている川崎中心部を彩っていることに誇りを持ってもらいたいと思います。

左記にはぐるま農園産の花苗が育っている公園をご紹介させていただきますので、ご家族やご友人とお近くに遊びに行った際には、ぜひ季節のお花を楽しんでいただければ幸いです。

【貝塚公園】 【下並木公園】

【サイトシティ川崎】 【池田町公園】

【小川町町内（教安寺前のストリート）】

【日進町中央公園】 【上並木公園】

【芭蕉の句碑】 【京町公園】 【京町第3公園】

【元木1・2丁目町内】



まだまだ勉強が必要な花苗づくりなのですが、明るく元気なまちづくりの為、頑張っていきたいと思います。

収穫祭でお待ちしています！

今年も「はぐるま稗原農園収穫祭」の季節がやってきました！

前回、大好評だった仲間たちによる太鼓演奏では、和太鼓里空さんと練習を重ねてきた「はぐるま太鼓」という完全オリジナル楽曲に挑戦をします。

また、昨年度の反省を生かし、より仲間たちの要望を主体とした地域に愛されるフェスティバルへの発展を目指します。

もちろん皆様が楽しみにしているサツマイモ収穫体験&宝さがし、農園産の季節の野菜をはじめ、ビストロ・カプリシユーが提供してくれる一流の料理、「もつと受付数を増やして！」と大反響だった【子どもランチプレート（限定50食）】企画も継続予定です。

他にも、マルシェブースでの限定オリジナルグッズの販売、地域協力団体との子ども泥んこ広場企画や稗原ゆくずカフェの設置、田園調布学園大学福祉学科とのパフォーマンス共演と農園産サツマイモを使用したスイーツの販売等、盛りだくさんの内容で皆様のお越しを心よりお待ちしております。



収穫祭に向けて、オリジナルグッズやスイーツを企画開発中ですので、ご期待ください！



多くの協力団体、地域住民の皆様と
実りの秋を祝う大イベントです
収穫体験・音楽・料理・各種ドリンク等
楽しいイベントですよ！



はぐるま稗原農園収穫祭のご案内チラシを同封させていただきましたので、11月3日（木・祝）は、是非はぐるま工房（稗原農園）へご来園ください！